

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2872700444		
法人名	社会福祉法人 那珂の郷		
事業所名	グループホーム グリーンヴィラ那珂		
所在地	多可郡多可町中区牧野字国木谷166-9-1		
自己評価作成日	令和7年8月15日	評価結果市町村受理日	令和7年9月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県加古川市加古川町稲屋177-10
訪問調査日	令和7年9月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の周りは緑に囲まれ季節の移り変わりを感じながらゆったりと過ごされています。居室は南向きで日当たりもよくベランダに自由に出入りでき花や野菜を育てておられます。入居者にとっては恵まれた環境にあると思います。温かみのある居住空間や家庭的な雰囲気重視。個別ケアの充実として利用者一人ひとりの生活歴や好み、健康状態に合わせたきめ細やかなケアを提供しています。利用者一人ひとりの状態や希望に合わせたケアプランの作成と実施。・生活の質向上を目指したサービス。利用者の趣味や能力に合わせた活動の実施・食事面では季節ごとの食材を使用し職員それぞれが手作りの美味しい食事を提供しています。利用者も一緒になって食事の用意をしています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】自然に囲まれた場所に建てられたグループホームです。定員9名までとなりとても家庭的で落ち着いた住空間です。困難ケースへの支援では、市の職員から相談が入り専門職と連携し対応している。【工夫点】①食事を楽しむことのできる支援：日用品の買物など外出の支援を日々の状況で柔軟に対応している。②地域との交流：同法人で実施している「絆カフェ」に月2回参加する機会を有効活用している。③趣味や能力に合わせ個別的な支援を展開している。④排泄の自立支援への取組：自尊心に配慮し本人の生活リズムに添った個別支援を実施。⑤入浴を楽しむことへの支援：好きな曲をかけ体調や気分に対応。⑥働きやすい職場：勤務時間の調整と職員研修の充実している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価
		実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営			
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は毎月のミーティング時に唱和しています。家庭的な雰囲気大切に、安心して過ごせる環境づくりを心掛けています。利用者一人ひとりの希望や趣味を尊重しその人らしい生活を支援しています。また地域の行事やボランティア、医療、福祉機関と連携し地域とのつながりを深めています。玄関にも掲げ実践につなげています。	地域密着型サービスの意義を踏まえ職員で地域に根差し発信地となるよう安心して過ごせるようその人らしさを重視し寄り添う支援を心がけている。働く職員一人ひとりが理念を理解し、日々利用者に関わる際に、理念を日々のサービスに反映できるよう月1回ミーティングでは、職員全体で唱和している
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は利用者が地域とのつながりながら暮らせるよう、地域の一員として積極的に交流しています。具体的には絆カフェや法人の夏祭り等に参加しています。またトライアルウィークの受け入れをして中学生など地域の若い世代が参加し、交流や理解を促進し地域とのつながりを大切にしています。	「暮らし」を事業所内だけで完結するのではなく、地域が必要とされる活動に積極的に参加している。同法人内で取り組む「絆カフェ」月2回実施され3～4人で参加。地域が必要とされる活動に積極的に参加している。令和7年7月中区音楽会にも参加されました。行事や催し等情報を集めている
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内での勉強会を通じて職員の認知症支援能力を向上させ、地域における支援の質を高めています。民生委員や地域の人に困ったことがあればアドバイスしています。	
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に1回民生委員、家族様、行政が参加して行っている。現状報告を行い意見をもらってサービス向上につなげている。	運営推進会議では、家族様も参加されます。地域から民生委員も参加され協力者として意見をいただきます。会議では、事業所の現状や行事について報告します。また事故報告では再発防止のため参加メンバーから質問、意見を受け双方向の会議となるよう努めています。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会で町福祉課、民生委員が参加され情報の共有や事業所の現状やニーズを伝えている。困難事例の相談、介護保険の更新申請などを行っている。	担当者と運営推進会議を通じ問題点について共有を図っている。また複数の問題を抱えたケースの相談など一緒に取り組んでいます。介護保険制度の加算算定等問い合わせしている。職員とは日頃から連携を図り、情報交換が図れている。
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常のケアでは、玄関の施錠を含めた身体拘束を避け利用者の状態に合った対応を心掛けています。安全を守りながら尊厳を保つために居室の環境を整えたり(車椅子の使いやすさ介助スペースを確保したり)、コミュニケーション方法を工夫したりしています。また転倒を防ぐ為センサーマットを使用しています。	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を法人内で年4回実施されています。利用者の安全面に配慮して声かけをしながらそのひとらしく自由な暮らしを支えるようにしている。スピーチロックや言葉で相手の行動を抑制していないかケアの工夫が必要と考えている。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止の法律や対策について研修を受けています。これにより、虐待のサインや正しい対応がわかるようになってきました。利用者の意思やプライバシーも大切に、家庭や職場での虐待を防ぐ努力をしています。さらに職員の勤務時間を調整し過労やストレスを減らすようにしています。	高齢者虐待防止法をもとに勉強会に参加している。年4回法人の委員会に参加している。「虐待とは」など基本的な内容を学ぶ機会となっている。研修報告書を作成しファイルで管理しているまた学びの内容は朝のミーティングで伝え他の職員に周知します	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は定期的に成年後見制度の勉強会を行い制度の内容や活用方法を理解しています。これにより必要な支援を的確に提供できるよう努めています。成年後見制度、現在一名利用、一名申請中です。	年間を通した勉強会では、成年後見制度について学ぶ機会を持っています。家族がいない、また単身の利用者との手続きなど契約行為の際に、成年後見制度を活用している。対応している職員以外の他の職員も理解したうえで活用できるよう努めている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に事業所見学してもらい契約内容、サービス範囲、費用、利用規則などをわかりやすく説明。説明後に利用者や家族に内容を再度確認してもらう。その都度書面や資料を提供。契約締結・改定・解約時はその都度説明している。不安や疑問点があれば納得のいく方法をとってもらっている。	契約時は、1時間程度時間を取り重要事項説明を丁寧に行うことにしている。契約時には事業所のケアに関する考え方や取り組みを説明し十分説明するようにしている。家族の疑問を尋ね「通院介助」について対応可能な範囲などで説明を行う。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際や日常の会話、電話などで家族の意見や要望をお聞きしサービス改善や運営方針に反映している。また利用者からの意見も聞き運営反映に繋げている。	家族様アンケートでは「気軽に訪問でき、相談しやすい。」など何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。家族様アンケートでは、家族一緒のバスでお出かけが「よかった、とても楽しみ」との意見でした。感謝の言葉が多く書かれていました。	今回の家族様アンケートの意見もですが職員全員で意見等を共有できるしくみを検討してみましょう。送りノートの有効活用などいかがでしょうか。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの運営に関する意見や提案を収集し必要に応じて改善策を検討、実施しています。気付いたこと何でも話し合える関係を作っている。	月1回のミーティングでは、職員の意見やテーマをもとに検討する機会となっている。食事メニューも手作りでその日に検討されています。利用者との日々のかかわりの中で生まれる職員の気づきやアイデアを、その場で検討し柔軟に取り入れている。	ケアの中で気づきやアイデアを出し合い。取り入れておられます。その経過や対応はとても大切です。送りノート等に記録し経過を残しましょう。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家族環境、勤務状況や努力を把握し評価を行っています。資格取得に向けた取り組み、労働時間の見直し、働きやすい環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	職員のケア能力や実績を把握し法人内外の研修や働きながらのトレーニングの機会を提供しています。また資格取得にむけた取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	電話で情報共有や意見交換を行いサービスの質向上を図っています。アイデア交換を行い改善につなげている。		

自己 者 第三	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの情報をもとに、本人の過去の生活スタイルや好みを理解し日課や活動に馴染ませている。初期の段階から本人のペースに合わせて少しずつ信頼関係を築き、安心して相談や意見を言える関係を目指しています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に見学してもらい困っていること、要望を聞いています。料金なども説明し安心して入所できるようにしています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向に基づき、短期・長期の目標を設定し、必要なサービス支援を計画している利用者、かぞくの要望を訪ねどのような支援が必要かフォーマル、インフォーマルなサービスも説明し対応している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意志や希望を尊重し、その人らしい暮らしを支援するための関りを大切にしており、本人中心のケアを行っています。人生の先輩、目上として敬いの心で接している。利用者に応じた得意分野を見極め“お願いします”の心で接し感謝の言葉を表しています。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相互に支えあう関係を築くため職員は家族と面会時等に定期的にコミュニケーションを取り信頼関係を重視しています。具体的には本人の希望や家族の意見を尊重し計画し本人と家族が安心して過ごせる環境づくりに努めています。例えば通院や行事の参加をお願いし共に支えていく関係を築いている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話などを通して交流を支援、利用者の希望を尊重、地域のイベントに参加し馴染みの場所や人とつながりを持つよう支援。写真や持ち物を用いて安心感を促進。スタッフが好きなことを理解し継続的に関わっている。例えば地域のふれあい喫茶、馴染みの美容院、スーパー、知人の訪問などです。	地域に暮らす馴染みの場や交流の機会に参加できるように取り組まれています馴染みの美容室に通われる方や職員と一緒に地域のスーパーに好きな物を買出しに出かけています。また家族様とカフェと一緒に出掛けることもあります。今までの関係を継続できるよう積極的にアプローチしています。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは日常的に利用者の交流、性格、関係性を観察し誰と誰が良好な関係にあるかを把握している。定期的なスタッフ同士で話し合いを行い情報共有を行っている。また共同レクリエーションやグループ活動を実施し利用者同士の交流を促進しています。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族の意向を尊重し必要な支援や情報提供を柔軟に行っている。また退所後もイベントや地域交流へ言葉掛けを行っている。退所後も面会に行ったり家族の様子をたずねてアドバイスしたり散髪に来てもらったり交流の継続をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族にはこれまでの生活歴や希望などを面会時や電話で尋ねている。利用者には生活の中で表情や言葉の中から感じ取りし、また家族に確認し個人ノートに記入し申し送りして伝えて情報共有している	入所時における情報収集は、ご本人様及びご家族様等からの聞き取りで行われていました。フェイスシート及びケアプランの意向等も確認をしました。入所後は各計画作成担当者及び介護職員、他機関とそれらの情報を共有されているとのこと	入所時のフェイスシート及びアセスメントシート、経過記録を再度見直し、情報の更新をされるようお願いいたします。
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの生活歴情報を訪ね、利用者には会話の中からヒントを得ている。前の担当ケアマネにもサービス経過報告してもらっている		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の挨拶、バイタル測定などからその日の体調を把握し、できそうなことや、得意なことをお願いしている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の意見を把握し、また医師や訪問看護師の意見を参考にし、ケアマネ、職員と話し合い作成している。モニタリング、カンファレンスも毎月行い、介護計画は必要に応じ変更している	情報収集を行い、その内容の分析を各職員間でその都度話し合い等を行い、実践に活かしておられました。それらが口頭で行われることが多いようで、記録の記載が不足している所もありました。話し合いの内容がわかるように支援記録をお願いします。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、その時の様子や言葉も記録し、良かったこと、悪かったことなど情報共有し介護計画の見直しに活かしている		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族のない人や遠方で来られない家族等受診や各申請代行している。また特養で予防接種を受けたり、看護師に応急手当してもらっている。、車椅子対応車で送迎してもらっている		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナが治まった頃から、なじみの店や町主催の音楽会、地域のサロン参加や、個別の外出など思い思いの場所に出掛けている		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は入所前のかかりつけ医を受診している。受診は家族対応をお願いしているが体調の悪い時は職員も一緒に同行し医師から説明を聞いている。急変時は施設対応している。歯科は必要に応じて往診してもらっている。	地域の中で速やかに通院ができるように入所様及び家族様のご意向を確認し、主治医については適切な医療を受けることができるようにしている。また、訪問診療で来訪される医療機関に対しては本人様・家族様の同意をもらい情報提供等を行っている	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の気になることは訪看に相談し確認してもらいアドバイスをもらっている。受診が必要な時は受診調整してもらっている。訪問時は利用者とも話し本人の気になる事にもアドバイスしてもらっている		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供し、入院中も面会に行ったり、医療連携室、家族とも情報を共有し早期退院への支援をしている。	入所者の医療機関への入院に係る情報提供は速やかに受け入れ頂くためにも当日に行うように心がけている。退院についても同様で、退院時カンファレンスに参加し、状態把握を行い、退院時、本人様・家族様、そして受け入れを行う介護職員も不安なく戻れるように支援を行っています	入退により、得た情報もケアプランに反映できるようにフェイス及びアセスメントシートに反映しプラン作成を行うようにしましょう。
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時重度化や、終末期について施設で対応できることや出来ないことを説明し看取りも出来ないことを説明している。重度化したときは、家族、医療機関、特養と連携し納得のいく方法を選んでもらっている。	入所時に「重度化した場合の対応に係る指針」及び「看取り介護の指針・看取り介護の定期」等を説明し、当該施設においてできないことのある状態の説明を行い同意を頂いている。選択肢をもって説明を行い本人様・家族様によってその選択が行われている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し定期的に勉強会もしている。AEDも全員使用できるように訓練している。併設の特養とも連携し合同研修に参加したり、援助しあえるようにしている		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が定期的に避難訓練を行い災害時の避難方法を訓練しています。昼夜問わず、実際の状況を想定した訓練を通じて、避難経路や避難場所の確認を徹底しています。備蓄品とし非常食、飲料水、医療品の備蓄を行い安全確保のため措置を整えています。また災害時に迅速に情報を伝達できるよう、非常用の通信手段やサイレン、連絡網を整備しています。	非常災害時における避難計画や防災・減災に係る研修等も行っておられました。事業継続計画自然災害と感染症においても確認をしました。1階部分で小分けして水や食料品・備品等をローリングストックしておられました。	事業継続計画(自然災害・感染症)については、策定された計画を職員全員で周知ができるように毎日10分程度の時間を利用して読み上げなどの共有を図りましょう。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別のニーズや希望を尊重し本人の意向を反映したケアや活動を提供、尊厳を傷つけない丁寧な言葉遣いや態度を心掛けている。利用者の人格や誇りを尊重することで、安心して生活できる環境づくりをしている。	食事・排泄・移動(起居動作等)睡眠・入浴整容等は、個々の入所様の意向を聞き取りします。ケア内容に反映させてサービスを提供できるよう心がけています。動こうとしておられる方に対してスピーチロックをかけない様に職員間で注意をしています。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	定期的にお話する時間を作り利用者の思いや希望等を引き出せるよう促している。日常生活の中で利用者が気になること、今したいこと自分の意思で表現できるよう工夫をしている。例えば入浴の場面では服装の選択、レクリエーション活動への参加等		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランに本人の希望や思いを把握し利用者の意向を反映させている。本人のペースやリズムを尊重した支援では無理のない範囲での活動や日課を設定し職員は利用者の体調や気分に合わせて柔軟に対応している。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりの好みやスタイルを把握し、希望に沿った服装やアクセサリを選びをサポートしています。また季節に合った服装の提案、汚れや破損があれば適切に修理や交換を行っています。尊厳を保ちながら本人のペースに合わせて無理強いないことを心掛けている。髭剃りや爪切りなど出来ることはお願いし必要に応じて部分的に支援している。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの食の好みや食べやすさを考慮したメニュー作りや提供を行っている。明るく温かみのある食事の場を整え、会話や交流を促進し食事時間を楽しめるよう工夫している。適切な食事形態で自立性を尊重した支援を実施しています。職員も同じものを一緒に食べコミュニケーションを大切にしています。	食堂兼居間の部分に隣接し厨房とカウンターがあり、職員と一緒に厨房に入られます。手洗いやスリッパの履き替えを行い、盛り付け・配膳・下膳などできる方は一緒に行ってもらい美味しく食事を摂られる工夫をしています。1週間のメニューは自家栽培の野菜等を作り概ね手作りです。	メニューにも工夫を凝らし、手作りの食事を提供されています。現在の健康を維持頂くためにカロリーが確認できたり、残食率なども見ていけると更に良いと思います。検討ください
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の工夫、食事形態や味付の調整、見た目の工夫などを行い食べやすさと満足感を高めている。食事の様子を観察し咽や飲み込みの困難があれば適切な対応を行っている。必要に応じて介助もを行っている。食事、水分量も記入しチェックしている。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入所者一人ひとりの口腔状態や身体状況に応じて支援している。毎食後の口腔ケア、言葉掛けを行い食事後に菌磨きやうがいをしてもらっている。高齢者の自立度に合わせて本人が出来る範囲の口腔ケアを促し必要に応じて職員がサポートしている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄習慣やパターンを把握するため排泄チェック表を作成し適切なタイミングで支援内容を設定している。利用者がトイレに行きやすい環境整備を行い、自立を促している。利用者が安心して排泄できるよう、丁寧な言葉掛け気配りを行っている。	排泄介助について、各入所者様のご状態や排泄パターンを把握し、リハビリパンツから布の下着に変更された方が2名ほどおられます。配慮のある声掛けを職員の方まで検討し、できるだけご自身でトイレに行くことができるような支援を行いました。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝行うラジオ体操や可動訓練体操など適度な運動を取り入れ、腸の動きを促進しています。食事の工夫として食物繊維を多く含む食事や水分摂取量の増加を促すなど、バランスの良い食事を提供しています。必要に応じて医師と連携し、便秘薬の適正使用やその他の治療を行っています。	
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	歌が好きな方には音楽をかけ、また入浴剤を使用したりしています。利用者の体調や気分に応じて柔軟に対応し無理のない範囲で入浴を楽しめるよう配慮しています。入浴日はお知らせし好きな時間帯に入ってもらっています。	音楽をかけながら入浴するというユニークな取り組みをされているようです。また、その入所者様のご状態やご希望に合わせて入浴方法を変更されています。曜日や回数等の聞き取りをされています。リラックスされて入浴いただくようにゆず湯などのイベントも企画されていました。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活習慣や睡眠パターンを尊重し、無理のないタイミングで休息や就寝を促している。静かな環境や室温調節、照明を整え、リラックスできる空間を提供しています。適度な運動や活動を促し夜間の睡眠につなげています。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容を把握し、個別に適切な支援を行っています。服薬時には言葉掛けを行い、飲み忘れや誤飲を防ぐとともに、服薬後の体調や症状の変化にも注意を払い必要に応じて看護師や医師へ報告しています。また服薬に関する不安や疑問には丁寧に対応し利用者の安心につなげています。薬を準備する人渡す人と二重のチェックをしています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や得意なことを踏まえ、役割や楽しみごとを通じて日々に張り合いや喜びを感じられるよう支援しています。嗜好品の提供や季節に応じた気分転換の機会を取り入れ、生活意欲の向上を図っています。	
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に利用者から要望等を聞き外出の希望があれば計画を行い支援を行っている。また普段行きにくい場所についても、本人の希望を尊重し家族や地域の方々と連携しながら外出の実現に向けた支援を行っています。(村でのイベントや買い物、お墓参りなど)	日常的な支援として、施設外周等を入所されている方が散歩にでたりすることができる環境でお地藏さんや懐かしい自宅等への外出等の支援も行われていることがわかりました。地域の皆様と交流を持ちながら多くのイベントなどに継続して参加されています。

自己	第三	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を持ち使うことの大切さを尊重している。一人ひとりの希望や能力に応じて安全にお金の所持、使用できるように支援しています。買い物の機会や金銭管理のサポートを通じて自己決定や生活の楽しみにつながるよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が家族や大切な人と自ら電話や手紙でやりとりできるよう支援しています。本人の希望や状況に応じて、必要な準備や操作のサポートを行い、つながりを大切に支援をしています。			
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間、廊下、食堂などの共用空間が利用者にとって快適で安心できるよう、温度や、音、光などの刺激に配慮しています。また生活感や季節感を採り入れた装飾や生け花などの配置を工夫し居心地の良い居場所づくりに努めています。	施設の周辺は木々が立ち、日の光が差し込みとても環境が良いと思います。1階フロアにある食堂兼居間を中心としてそれぞれの廊下を進むと各人居者様の居室へと繋がっています。大きなテーブル・椅子がおかれ休憩が適度な箇所できるように工夫されています。		外の光が明るいことと、天井が高く空間としてはとても開放感があるのですが、実際に歩くところやテーブルの上が若干暗く感じます。採光の取り入れ方や電灯の点灯を再度ご確認頂きたいと思います。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個別にゆったり過ごせる一人用の椅子やグループで話しやすいソファ席や利用者の気分や状況に応じて選べるようにしている。職員の言葉掛けや見守り利用者の様子を見ながら無理なく交流できるように声をかけたり、一人で過ごしたい時はそっと見守るなど、柔軟な対応を心掛けている。			
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や面会時に本人や家族の希望や好みを丁寧に聞き取り、居室の環境づくりに反映しています。本人が使い慣れた家具や小物、写真、趣味の道具など持ち込めるようにし、安心感や親しみやすさを心掛けてます。	本人および家族の希望や嗜好を丁寧に聴取する取り組みが行われている。これらの情報は居室環境の整備に反映されており、具体的には、本人が日常的に使用していた家具等がおかれ安心して過ごせるような環境づくりを意識していることがわかりました。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人のペースを尊重した支援、できることは本人に任せ、必要な部分だけサポートしています。またできることでもその日の体調によってできない時は柔軟な対応をしています。			